



## 第34回 全国ろうあ高齢者大会



こういった場に  
参加することで  
勉強になることも  
たくさんあるね！

10月6日～9日まで、千葉聴覚障害者センター、千葉市ハーモニープラザ、青葉の森公園にて開催されました。コロナ禍ということもあり、準備含め大変な中でしたが、一日だけお手伝いをさせていただきました。全国から集ったお元気な笑顔をお迎えでき、良き思い出に！大盛況の4日間でした。



参加者に配られたプログラムとお土産の品

### 参加者の声...

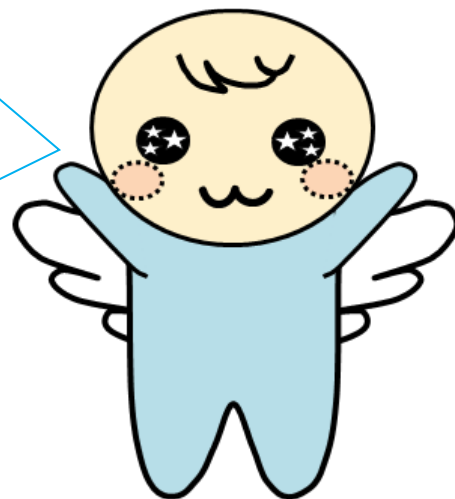
10月8日のアトラクションを楽しみに参加しました。早瀬憲太郎氏の講演「咲むよもやま話」では、映画作成のためには何事もあきらめないという強い気持ちに感動しました。また、講演されている手話表現の強弱や豊かな表情に、目が釘付けでした。多彩な才能をお持ちの方なのだと感じました。参加してよかったです。

## 第25回夏季デフリンピック日本開催決定！

2025年に開催予定の第25回夏季デフリンピック。日本聴力障害新聞はデフスポーツの啓発運動を盛り上げる一環として、号外カラー版をネットでも公開しているよ！

この大会がコミュニケーションの障壁を崩して、環境の発展につながり、誰もが住みやすい社会になるといいね！！

多方面との連携しながら、ろう者主体で運営するデフリンピックを、みんなで応援しよう！！



## サークル紹介

手話サークル「青べか」は、東西線浦安駅徒歩5分、浦安市中央公民館で、毎週月曜日(祝日・休館日を除く)の夜7時から。会員の年齢・経歴等は様々ですが、毎回、アットホーム な雰囲気です。

「青べか」という名前の由来をよく聞かれます(笑)「べか」とは「舟」のことです。職人手作りの木製の舟のことを「べか舟」と言っていたそうです。浦安市は、かつて漁師町。昔はこの「べか舟」を使って海苔の養殖や貝などの漁が盛んに行われていました。昭和35年に発行された山本周五郎著の『青べか物語』は、その頃の浦安が舞台になっています。作中で主人公が『ペンキで青く塗られた、くたくたの舟で、胴体がふくれ、不格好な』舟を購入します。それが「青べか」です。

しかし、昭和40年頃から「べか舟」は次第に姿を消していきました。現在は、市内の郷土博物館で昔ながらの「べか舟」を見ることができるのみです。漁業権放棄を経て、観光の街へ姿を変えてきた浦安市。そのような中で、「青べかのようにくたくたでも良い、不格好でも良いから、ろう者が大事にしてきた手話とろう文化、そして浦安の歴史を次世代へ繋いでいきたい」との思いから、昭和55年12月に「浦安市手話サークル青べか」は誕生しました。これからも青べかでは、ろう者の文化・歴史などの勉強にも力を入れつつ、手話を大切に学んでいきたいと考えています。

〈手話サークル青べかのホームページ〉

<https://u-shuwa-aobeka.jimdofree.com>

特集3号  
青べか  
の巻〜♪



◇今年入会されたばかりの I さんよりコメント◇

映画『コーダ〜あいのうた〜』を鑑賞したことをきっかけに、手話に強い関心をおぼえて見学の機会を求めたのが、青べかとの最初のきっかけでした。ろうの方をはじめ会員の方々が、手話はおろか指文字ひとつまならない私を温かく歓迎してくださり、すぐに入会を決意。現在は月に2〜3回参加させていただきながら、楽しく手話を学ばせていただいています。実際に入会してから感じていることは、自分がこれまでの生活のなかで進んで知ろうとしてこなかったこと、知ろうとさえしていないのに理解できていないままにしていることがたくさんあるということ。



手話という言葉を学ぶにつれ、人と人との間で交わされるコミュニケーションの本質を見ているような、とても新鮮な思いがしています。テクノロジーの進歩やコロナ禍を経て、人と人との間に距離が生まれやすくなった時代だからこそ、人間だから出来る表現の可能性、人間だから実現できる関係性を確かめながら、これからも素敵な会員の方々と共に学んでいきたいと思っています。

第2回役員会(9月18日@千葉聴覚障害者センター)今年度の活動について・かわら版について他

県サ連ホームページ <http://www.kensaren.sakura.ne.jp/>

発行：千葉県手話サークル連絡協議会 責任者：外口晴久